

ンスの放射光施設Soleilに出向き、最新鋭の装置を視察して実験する機会にも恵まれました。ようやく昨年の夏に、その装置をSPring-8の理研ビームラインBL45XU-SAXSに導入し、実用化に至ることができました。最近、分子研時代にお世話になった青野教授に本研究成果を発表する機会を与えていただき、懐かしい面々と再会して近況報告とともに装置の宣伝もすることができ、大変感謝しております(写真2)。

このような大学教育と研究活動の狭

間で、私は改めて“研究”という贅沢な“幸福”を噛みしめつつ、近い将来、また分子研で研究三昧の日々が送りたいなぁと大志を抱いています！

最後に……分子研で働くポストドクや総研大生の皆様へ；

分子研で過ごされる日々は、自由な発想で存分に研究に打ち込むことができる人生の貴重な期間だと思います。分子研の恵まれた環境を大いに活用し、世界へ羽ばたいてください。

## 覧古考新06 | 1996年

分子研の功績が五十年後に語られるとしたら何でしょうか？

研究成果のどれが生き残って時代の試練に耐えるでしょうか。

私は個々の研究成果ではないかと思いますが。

私は分子研のいちばん大きな貢献は人間の流動を活性化したことだと思っています。こう言うと叱られるかもしれませんが。

分子研が助教授、助手をはじめ、技官や、最近では総合研究大学院大学の学生まで含めて、人事の流動性を維持しようとして来られたことを私は大変立派だと思っています。教授だけは停年まで任期がないという陰口もありますが、それとても二次、三次の波及効果まで考えると分子研の採用が生み出してきた流動活性化効果は大変なものです。はたから見ていると（時にはかなり無理をしてでも）人の流れを止めないように努力しておられるのがわかります。

.....

ときどき吹き付けてくるエリート臭さやお役人臭さに辟易しながらも期待しているのです。頑張れ。分子研様。

分子研レターズ No.34 レターズ「分子研の功績」(1996年)  
小谷正博 (学習院大学教授 化学)